

生きづらい社会 しんどい君へ

みんな、生きづらい

失敗や遠回りが許されない社会

一度決めたら二度目はない。一生が決まってしまう就活に必死

受験戦争はしんどい。見えない「敵」を蹴落とす。

将来の夢より『安定』を優先

自分のことで精一杯の日本は『社会が死んでいる』感じ

『社会を変えよう』とか思えない。与えられた枠組の中で自分が生きることで精一杯。

周りからの『同調圧力』の中で育ちながら、高3で突然、選択を迫られる。

大学に行くのは、就職が有利になるから？

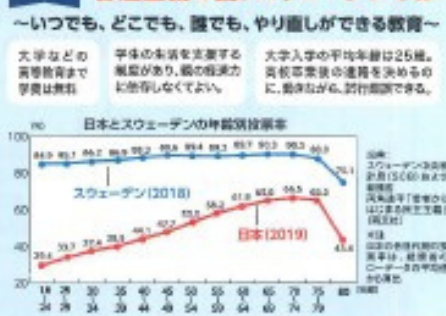
『ルール』からはずれてしまった自分。絶望してひきこもりになった。それも自分の責任。

競争意識や「自己責任」論からくる「安定」への強迫観念と不安、個性の主張を許さず政治をタブー視する同調圧力、規律遵守が重視され理不尽さを受容させられる圧力、親からの支配・拘束。各地の若者への働き取りから、様々な「生きづらさ」が聞こえてきた。

若者が生きづらい国、日本 — 他の国との比較

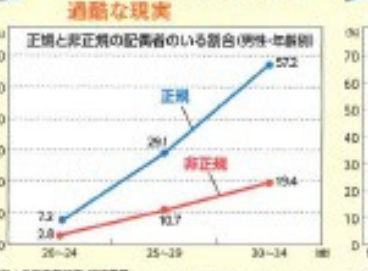
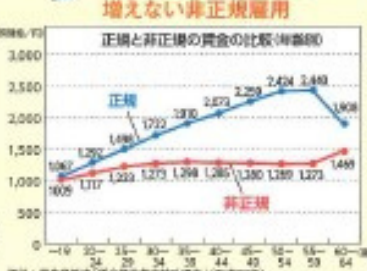


コラム 普通主義の国、スウェーデンでは



生きづらいのは、どうしてなんだろう？

衣食住のほか、人は、学んだり、働いたり、子育てをしたりして生きていく。



若者のための教育や社会保障の公的支出がとても少ない日本



「自己責任」論

- 学べないのも、仕事不安定なもの、結婚できないのも、みんな「自己責任」!? そう言われ、自分でもそうだと思う社会
- 「自己責任」だから、教育や社会保障にかけられるお金は削減しがち

生きづらい社会の仕組みや考え方を改めて、「今」とは違う未来を選ぶのか。このままでいいのか。

日弁連の提言は表面へ